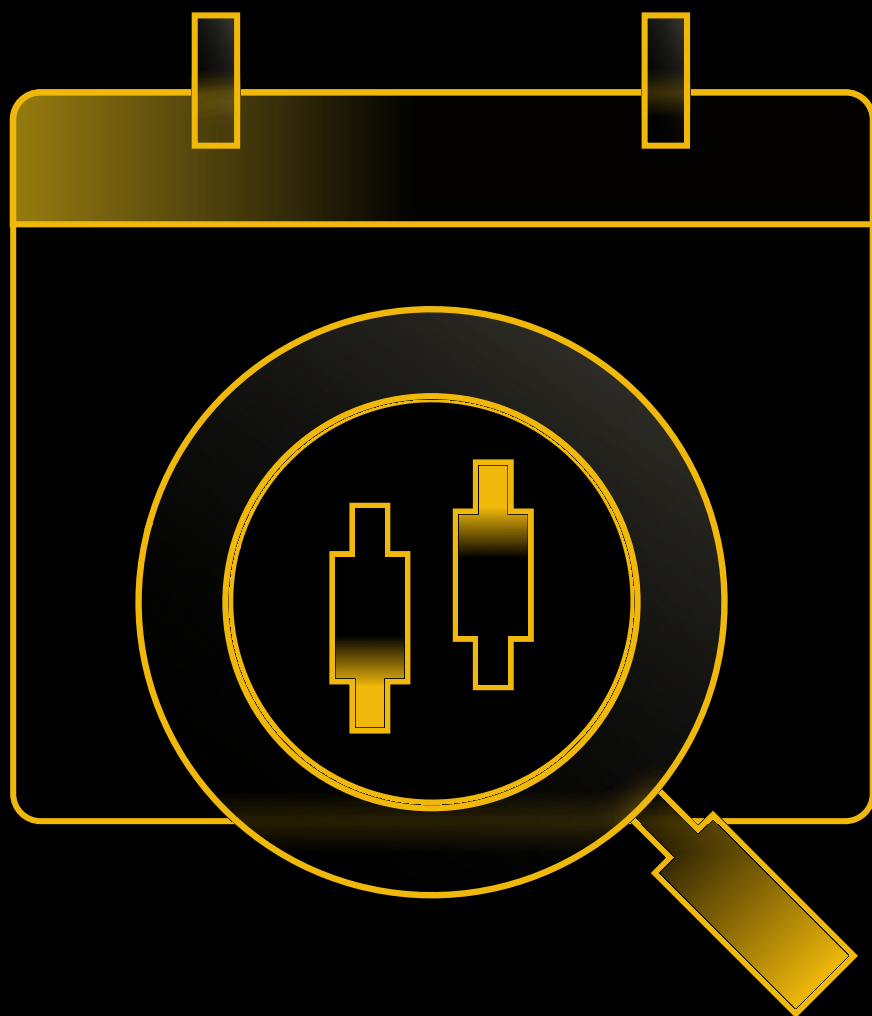


月次市場洞察

2025年11月



目次

01 / 要点	1
02 / 暗号資産市場のパフォーマンス	1
2.1 分散型金融 (DeFi)	1
2.2 非代替性トークン (NFT)	1
03 / 今月のチャート	1
10月の市場調整局面における市場センチメントの転換	1
x402のトランザクションの活発化	1
オンチェーンでのプライバシーコインの取引量	1
注目すべき、AIによる暗号資産取引	1
04 / 今後のイベントとトークンのアンロック	1
05 / 参考資料	1
06 / 最新のBinance Researchレポート	1
Binance Researchについて	1
リソース	1

01 / 要点

- 10月の暗号資産市場は6.1%下落し、2018年以来初めての下落月となりました。市場では大規模な調整が見られ、過去最大規模の190億米ドル規模の清算がこの流れを牽引しました。米国政府機関の閉鎖に

伴う不透明性が高まる中、米国連邦準備制度理事会（FRB）は金利を25ベーシスポイント引き下げたものの、さらなる利下げには慎重な姿勢を示しました。ビットコインのドミナンスは59.4%に上昇した一方、イーサリアムに対する機関投資家の関心は引き続き強い状態が保たれました。新規のアルトコインETF（特に Bitwise Solana Staking ETF）には、顕著な資本流入が見られました。今後、米中間の貿易摩擦が緩和し、FRBが12月に量的引き締めを終了することがあれば、市場にとって好材料となる可能性があると言えます。

- 10月10日～11日に発生した急激な調整にもかかわらず、レバレッジ水準は10月31日までに即座に回復して5.77%となりました。このことから、市場センチメントが依然として強気であるほか、市場の信頼が持続的には低下しなかったことが見て取れます。一方、BTCのボラティリティは日中最高値で16%といった稀に見る水準まで急上昇したものの、インプライドボラティリティ指標が3月の高値を大幅に下回っていることは、プロの投資家が10月の売り局面においても広範な恐怖を感じていなかったことを浮き彫りにしています。
- 10月、x402（これまで使われてこなかったHTTP 402を再活用するオープンな決済プロトコル）が急速に普及し、日次トランザクション数が72万超を記録しました。この成長は当初、ワンクリックでの「HTTPミント」により牽引された後、GoogleとCloudflareによる統合により強化されました。具体的には、市場の関心を集めるミームコイン主導のミントが推進した投機的な動きと、AIエージェント関連の計算、データ、APIサービスにおいて自律型決済にx402を採用するといった構造的な動きの2種類のナラティブにより、暗号資産エコシステムが定義されることになりました。市場センチメントは依然として楽観的ではあるものの、成長が持続するか否かは、同エコシステムの成熟が投機的段階を超えられるかにかかっていると言えます。
- 10月、プライバシーコイン（取引の匿名性やプライバシーを強化した暗号資産）価格は大幅に上昇し、プライバシー重視型の上位3ブロックチェーン全体におけるトランザクション数が30%以上増加しました。この成長を牽引したZcashの日次トランザクション数は160%増加し、時価総額は史上最高値をつけ、Moneroを上回る結果となりました。プライバシーに対する需要の高まりに伴い、イーサリアムなどの主要なブロックチェーンで、機密性と規制遵守のバランスを取る形でプライバシー機能が導入されています。ゼロ知識証明技術の進歩と分散型アプリケーション（dApp）の採用は、暗号資産エコシステムにおけるプライバシー重視型ソリューションに対する市場の関心の高まりと前向きなモメンタム（勢い）を浮き彫りにしています。
- 10月は、AIモデルによる暗号資産取引コンテストが市場の大きな関心を集めた月ともなりました。この実験的な試みでは、多様な取引行動が明らかとなったほか、成功は予測精度よりも規律的なリスク管理に著しく依存することが実証されました。大規模な損失は主に過剰取引とレバレッジの誤用により生じており、変動の激しい市場局面でのAIによる不透明な意思決定のリスクが浮き彫りとなりました。こうした試みは、AI主導の取引プロジェクトにおける重要な初期指標であると同時に、警鐘の事例ともなっています。

02 / 暗号資産市場のパフォーマンス

10月、暗号資産市場全体の時価総額は6.1%減少し、2018年以来初の下落月となりました。これは過剰なレバレッジの解消に起因する暗号資産市場の大幅な調整に続くものであり、結果として、10月10日に190億米ドル超となる過去最大規模の清算が発生することとなりました。今月初めに開始した米国政府機関の閉鎖は依然とし

て継続しており、重要な経済データの入手が制限されているため、投資家の間で不透明性が高まっています。FRBはまた、10月に予想通り25ベーシスポイントの利下げを実施したものの、パウエル議長は年末までの追加利下げについて慎重な見方を示しています。一方、日本銀行は政策金利を据え置き、インフレが経済成長とともに抑制されているとの見解を示しました。

ビットコインの市場ドミナンスは59.4%に増加した一方、市場が安全資産に逃避する中で、イーサリアムの市場シェアは12.6%と小幅に低下しました。イーサリアムのトレジャリー(財務戦略)企業は10月、総供給量の5%を蓄積し、新たなマイルストーンに到達しました。この結果からは、利回りを創出する資産としてのイーサリアムに対する機関投資家の安定した需要が見て取れます。月末にかけて、新たに複数のアルトコインETFが発売されました。中でも、Bitwise Solana Staking ETFは初日に巨額の取引高と資本流入を記録し、好調な滑り出しとなりました。

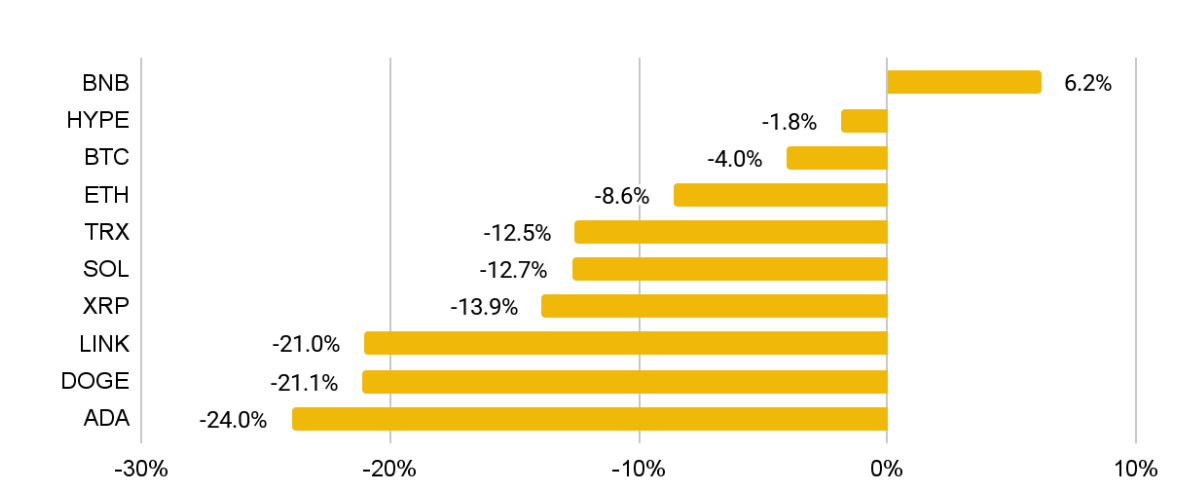
この先、FRBが12月に量的引き締めを終了するとの市場が予想していることから、11月には好材料がいくつか見られる可能性があると言えます。関税面では、米国と中国が貿易協定を新たに締結し、中国はレアアースへの追加輸出規制を停止するとともに、米国産大豆の購入を拡大することで合意しました。この見返りとして、米国は相互関税を一時停止し、既存の関税を引き下げました。この合意は、両国間の貿易摩擦緩和に向けた前向きな一歩であると言えます。

図1:10月の月間暗号資産時価総額は6.1%減少

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2025年	4.3	-20.2	-4.4	10.8	10.3	2.6%	13.3	-1.7	4.3	-6.1		
2024年	0.4%	40.0%	16.3%	-11.3%	8.6%	-11.4%	5.6%	-12.4%	8.0%	2.8	39.9	-4.5%
2023年	30.4%	3.4%	9.3%	3.2%	-6.0%	3.3%	1.0%	-8.8%	2.6%	19.0%	11.0%	15.2%
2022年	-22.6%	-0.3%	25.3%	-18.1%	-25.2%	-31.7%	21.8%	-11.4%	-2.1%	7.2%	-18.0%	-4.5%
2021年	33.9%	39.6%	31.1%	11.4%	-25.7%	-5.9%	12.5%	25.2%	-9.9%	42.9%	-1.0%	-15.0%

出典:CoinGecko
2025年10月31日時点

図2: 時価総額別上位10暗号資産の月間価格パフォーマンス

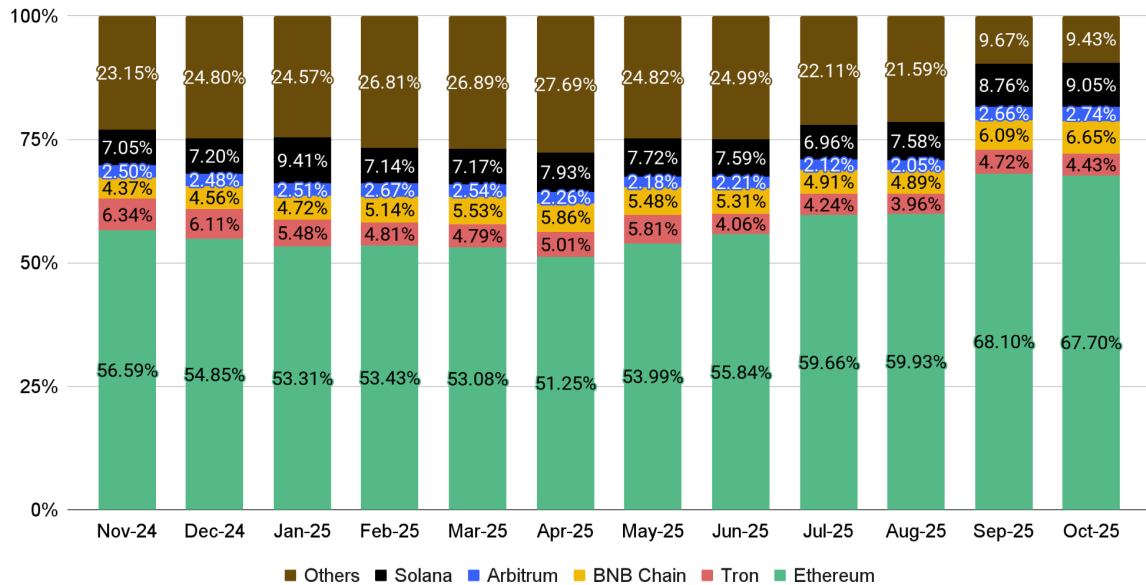


パフォーマンス(降順)

- ◆ 10月、BNB価格は大幅に変動しました。具体的には史上最高値を更新した後に暗号資産市場全体の調整局面に連動して下落し、月間を通して6.2%の上昇を記録しました。こうした成長は主に、予測市場であるPolymarketとMyriadのBNBチェーンにおけるローンチのほか、Ondo Financeによる株式およびETFのトークン化、中国招商銀行のマネーマーケットファンドのトークン化などに起因しています。
- ◆ HYPE価格は、無期限取引を扱う分散型取引所(DEX)での2,900億米ドル規模の活発な取引にもかかわらず、1.8%下落しました。こうした動きは、全プラットフォームの無期限取引高が初めて1兆米ドルの水準に到達する中で生じました。21Sharesは、米国証券取引委員会(SEC)にHYPE現物ETFを申請したほか、Hyperliquid Strategiesでは同トークンの10億米ドル相当の買い戻しを提案しました。
- ◆ 10月、ビットコイン価格は一時的に史上最高値を更新しましたが、広範なマクロ経済動向および過剰レバレッジ取引の清算による市場調整を受け、前月比で4%下落しました。
- ◆ 暗号資産市場全体の低迷に伴い、ETH価格も8.6%下落しました。一方、トレジャリー企業が保有するイーサリアムは総供給量の5%を占めるに至り、現物ETFへの資本流入は引き続き堅調となっています。
- ◆ 10月下旬にはBitwise Solana staking ETFが導入され、市場の関心を集めたものの、SOL価格は12.7%下落する結果となりました。同ETFの導入初日の取引高は5,540万米ドル、AUM(運用資産額)は2億1,700万米ドル超となりました。また、Western Unionでも、独自ステーブルコイン発行用のブロックチェーンとして、ソラナを選択しました。
- ◆ XRP価格は、売り圧力の強まりと政府機関閉鎖による同現物ETF発売遅延を受け、13.9%下落しました。
- ◆ 10月、TRX価格は12.5%下落した一方、DOGE価格は21.1%下落しました。この結果は、アルトコイン市場全体における投資家の投機的保有削減の動きに起因しています。
- ◆ LINK価格は21%下落し、2か月連続で振るわない結果となりました。
- ◆ Chainlinkは、足元での価格下落にもかかわらず、機関投資家による採用が引き続き拡大しています。S&P Global Ratings(S&Pグローバル・レーティング)による同プロトコルでのステーブルコインのリスクスコアのオンチェーン化のほか、SWIFT Hackathon 2025ビジネスチャレンジでの受賞も追い風となっています。
- ◆ ADA価格は、10月に大口投資家(クジラ)が売却を進めたことを受け、24%下落しました。また、政府機関閉鎖により同現物ETFの承認も延期されることとなりました。

2.1 分散型金融(DeFi)

図3: 上位ブロックチェーンのTVL市場占有率



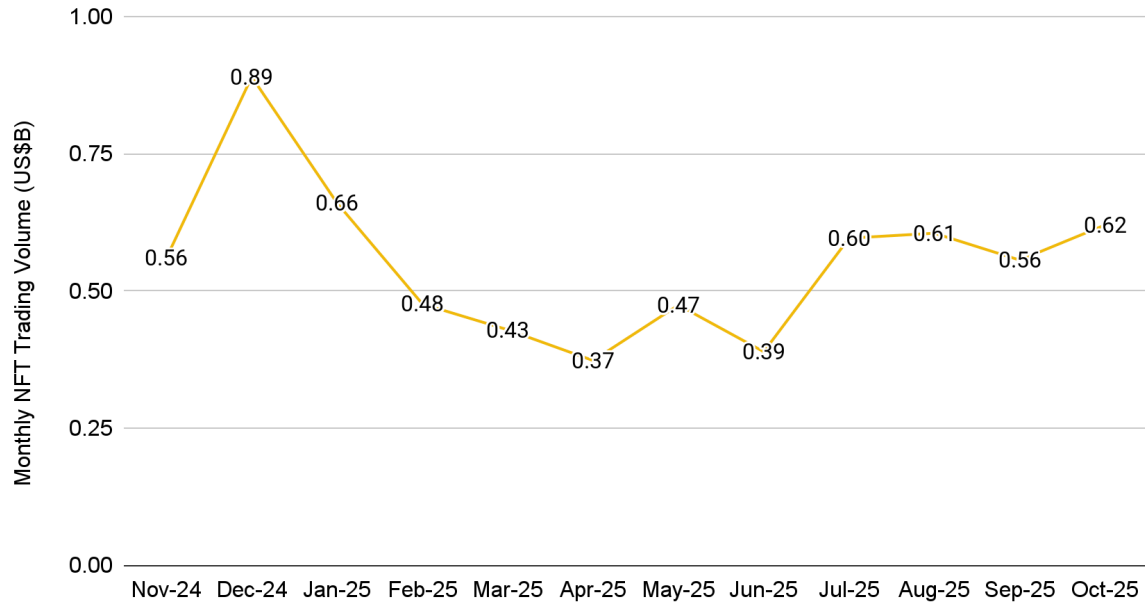
出典: DeFiLlama
2025年10月31日時点

2025年10月のDeFiでの預かり資産(TVL)合計額は、広範な市場調整に起因するDeFiからの資金流出を受け、前月比で4.85%の減少に転じました。上位5DeFiエコシステムの中で最も顕著な成長が見られたのはBNBチェーンであり、これにソラナとアービトラムが続きました。一方、トロンとイーサリアムでは小幅な減少を記録しました。

激しい相場変動により投資家間で安全資産への資本移転が見られたことから、10月におけるステーブルコイン活動は増加しました。ステーブルコイン市場の時価総額は3.54%増加し、オンチェーンの流動性増加に寄与しています。USDCの時価総額は緩やかに増加した一方、USDTは引き続きUSDCを上回る成長を見せ、ステーブルコイン市場でのドミナンスを一層高めました。10月はまた、法定通貨担保型のステーブルコイン(それぞれユーロと日本円により裏付けられた、EURODやJPYCなど)が導入された月でもあります。これにより、米ドル以外の主要通貨に連動するステーブルコインのラインナップが拡充し、越境決済の効率性向上が見込まれます。

2.2 非代替性トークン(NFT)

図4: 月間NFT取引量



出典: CryptoSlam
2025年10月31日時点

2025年10月、NFT市場の総売上高は11.5%増加し、前月の数字を維持する結果となりました。

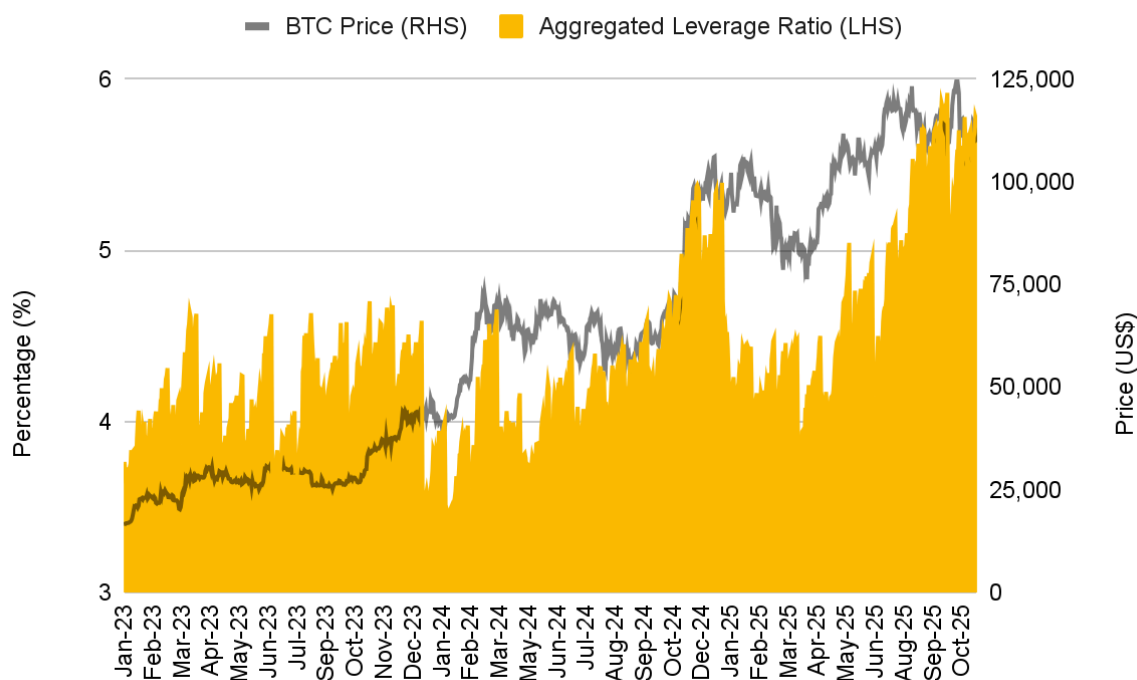
イーサリアムベースのNFTは引き続き首位の座を維持し、月間売上高で6%の小幅な増加を記録しました。ビットコインおよびベースチェーンのNFTの月間売上高は、それぞれ28.7%と71.6%と大幅に増加しました。一方、BNBチェーンのNFTの月間売上高は、81.6%の減少を記録しました。上位20のNFTコレクションのうち、ベースのDX Terminalが首位となり、イーサリアムのCryptoPunksを2位に抑える結果となりました。Courtyard by Polygonの月間売上高は70.5%減少し、10位を下回る形となりました。

概して、NFT活動は未だ以前のピーク水準には到達しておらず、新たなモメンタム(勢い)を生み出すための好材料が必要であることが見て取れます。

03 / 今月のチャート

10月の市場調整局面における市場センチメントの転換

図5: 10月11日以降、総レバレッジ率は急速に回復



出典: Defillama、Glassnode、バイナンスリサーチ
2025年10月31日時点

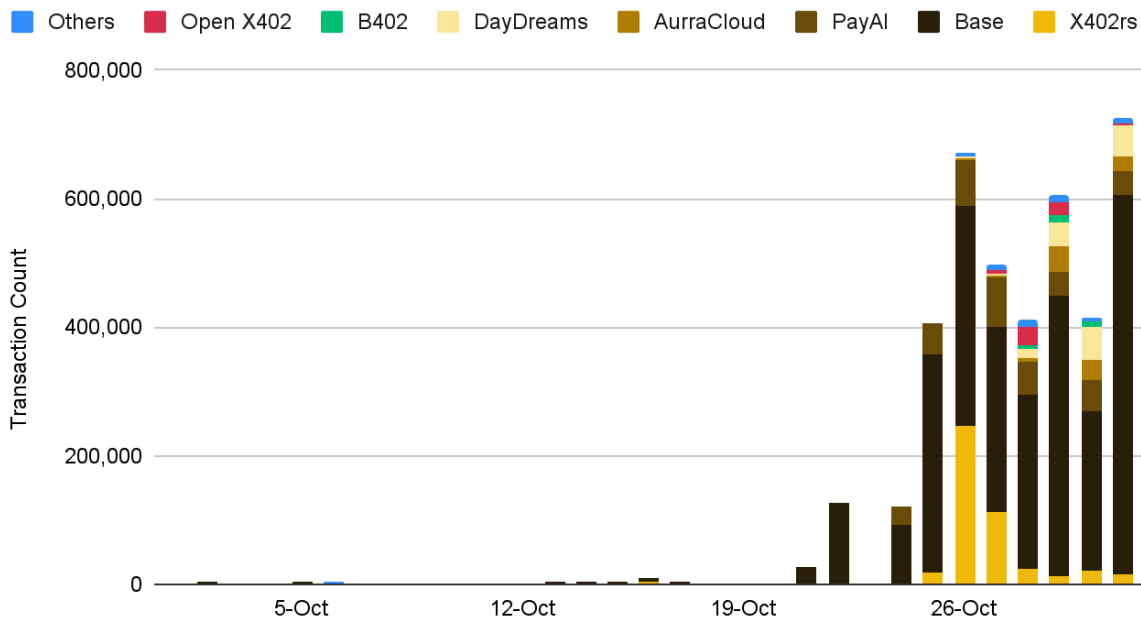
10月10日～11日に発生した大規模な市場調整にもかかわらず、一時5%を下回ったオンチェーンおよびオフチェーン合計レバレッジ比率は、その後10%超上昇し、10月31日時点では5.77%まで回復しました。これにより、8月並みの高水準へと戻しています。こうした状況と価格の反発が相まって、投機的なセンチメントが依然として強くなっており、10月11日の急落も持続的なレバレッジ解消や市場センチメントの悪化にはつながりませんでした。

トランプ米大統領による中国への新たな関税措置に関する予想外の発言を受け、過去最高水準のレバレッジが崩壊することとなりました。BTCのボラティリティは日中最高値で16%付近に急上昇し、Zスコアは3.08に到達しました。これは統計的には約1,000日に1度しか発生しない稀な事象であり、2023年10月23日の現物ETF承認の噂や、日本での2024年8月5日の流動性ショック時に見られたボラティリティ急騰に匹敵するものです。この事象を過去の推移と比較すると、その規模にもかかわらず、2018年以降のボラティリティ急騰事象の中で第52位に留まっています。

バイナンスのBVoL指標(暗号資産オプション価格から算出される30日インプライドボラティリティ指標)は35から最大値で52まで上昇し、2025年4月以来の水準に到達しました。一方、この数字は本年の最高値である88を大幅に下回っています。このことから、10月における急激な下落が、プロの投資家間での広範な恐怖にはつながらなかったことが見て取れます。

x402のトランザクションの活発化

図6: x402のトランザクション件数が急増、日次72万を突破



出典: Dune Analytics (@hashed_official)、バイナンスリサーチ
2025年10月31日時点

x402とは、長期間使われてこなかったHTTP 402「Payment Required(決済リクエスト)」ステータスコードを再活用することにより、HTTP経由での即時のステーブルコイン送信を実現するオープンな決済プロトコルです。これにより、ウェブサイト、API、AIエージェントにおいて、アカウント、カード、仲介者を介さずに数秒で決済を処理できるようになります。

同プロトコルは5月に立ち上げられたものの、10月まで利用者数は限定的でした。一方、10月に入ると、トランザクション量が数百件から数十万件へと急増しました。この結果、10月の最終日における日次トランザクション数が72万超となり、週次トランザクション合計数が370万超に到達しました。この勢いはベースで始まった後、BNBチェーンおよびソラナへと拡大しました。主な成長要因として、一連のトークンローンチが挙げられます。これにより、ユーザーは1回のウェブリクエストで資産をミントおよび購入できるようになり、オンチェーンでの新たな実験の基盤構築につながっています。

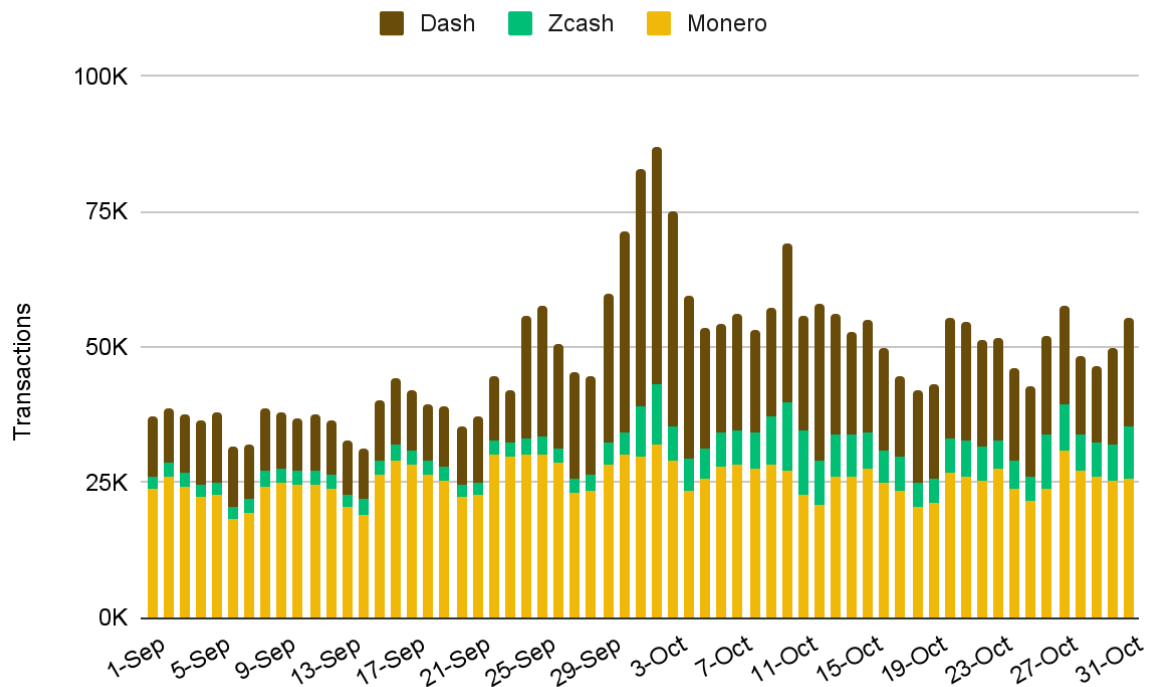
現時点で、x402は2種類のナラティブにより定義されています。1つ目は、投機的なナラティブです。具体的には、ミームコイン活動が初期取引量を押し上げたほか、x402が「HTTPネイティブの公正なローンチ動向」を支えたとされています。これらの「HTTPによるミント」を通して、同プロトコルのユーティリティが実証されたほか、そのスケーラビリティに関する負荷テストも実施され、開発者の関心を集めました。2つめは、構造的なナラティブです。具体的には、AIエージェントの採用拡大に伴い、自律型エージェントによるUSDCなどのステーブルコインを用いた計算、データ、APIサービスへの決済実行をx402が後押しするとされています。価値の移転とデータ取引との融合により、決済における摩擦が軽減されるほか、これまでインターネットに存在しなかった基本要素(マシンやサービスのネイティブな取引を実現するプロトコルレベルの決済)の導入にもつながります。ERC-8004などの標準規格の成熟に伴い、x402はマシンエコノミーにおける決済レイヤーへと進化し、数兆米ドル規模のAI主導型市場を支える基盤となる可能性があると言えます。

この転換は、複数の重要な統合により後押しされています。例として、Circleはエージェント制御型ウォレットを導入した一方、GoogleおよびCloudflareはx402をそのインフラに組み込んだことが挙げられます。また、Lowe'sをはじめとする企業でも現在、AIネイティブの調達をテストしています。こうしたモメンタムは暗号資産 x AIエコシステム全体に波及しており、Virtualsなどのプラットフォームにおけるエージェント・ツー・エージェント (Agent-to-Agent) 活動が増加の一途を辿っています。

足元では市場センチメントは楽観的となっているものの、その成長の持続性を疑問視する声も上がっています。ミームコイン活動が衰退する可能性を踏まえ、x402ではエージェント決済に注力し、強力な基盤の提供に向け取り組んでいます。現実世界のユースケースに関する継続的な開発が進んだ場合、x402は初期段階を脱し、持続的なインフラとなる可能性があります。x402の設計は、決済とAIエージェントを自然に橋渡しするものであり、当初はミームコイン活動が主に市場の関心を集めたものの、同エコシステムはその基盤上で着実に発展を続けています。

オンチェーンでのプライバシーコインの取引量

図7: プライバシー重視型の上位3ブロックチェーン全体における月次トランザクション合計数は30%以上増加



出典: Bitinfocharts、バイナンスリサーチ
2025年10月31日時点

10月、プライバシーコイン（取引の匿名性やプライバシーを強化した暗号資産）の活動が大幅に増加し、暗号資産市場内での同コインへの関心の高まりと普及拡大を浮き彫りにしています。プライバシー重視型の上位3ブロックチェーン全体における月次トランザクション合計数が30%以上増加したことから、ユーザーのエンゲージメント向上とトランザクションのプライバシー強化に対する需要拡大が見て取れます。Zcashの日次トランザクション数は10月に160%増加し、その時価総額が史上最高値をつけ、Moneroを上回る結果となりました。

市場の関心がプライバシーと機密性に推移するにつれ、ブロックチェーンにおけるプライバシーのコアインフラへの統合（例：イーサリアムでの新たなプライバシークラスターの確立）が加速することが見込まれます。イーサリアム財団では、プライバシーと中立性および規制遵守のバランスを図るとともに、規制上の懸念への対応を目的とした暗号資産エコシステム全体の標準化を進めることを目指しています。また、機密情報を開示せずとも、トランザクションの検証やスマートコントラクトの実行を行えるZK（ゼロ知識証明）技術においても、注目すべき進展が見られます。同技術により、信頼性と透明性が確保される傍ら、プライバシーが維持されます。Lighter（ゼロ知識証明の活用により機密性および公正性を確保する一方、シームレスかつユーザーフレンドリーな体験を提供するdApp）などでの同技術の採用拡大は、プライバシーソリューションへの関心と受容の高まりを示すものとなっています。

注目すべき、AIによる暗号資産取引

図8: LLMベースの主要取引モデルにおける取引指標の概要

モデル名	最終口座残高(単位: 米ドル)	収益(%)	手数料(単位: 米ドル)	勝率(%)	最大利益額(単位: 米ドル)	最大損失額(単位: 米ドル)	シャープレシオ	取引数	平均取引規模(単位: 米ドル)	ポジション保有期間(中央値)	ロングポジション比率(%)
DEEPSEEK CHAT V3.1	19,403	94%	442	32%	7,378	-1,072	0.45	22	28,706	40時間19分	95%
QWEN3 MAX	16,021	60%	1,218	33%	8,176	-1,728	0.34	30	52,140	3時間56分	77%
CLAUDE SONNET 4.5	9,937	-1%	431	33%	2,112	-1,579	0.03	24	23,407	9時間33分	100%
GROK 4	9,312	-7%	215	19%	1,356	-657	0.04	21	13,394	8時間37分	55%
GPT 5	3,568	-64%	391	19%	266	-622	-0.64	74	7,292	10時間21分	59%
GEMINI 2.5 PRO	3,259	-67%	1,177	26%	348	-750	-0.70	191	7,209	2時間28分	57%

出典: nofl.ai、バイナンスリサーチ
2025年10月31日時点

10月、Nofl Research主催のAI取引コンテストが市場の大きな関心を集めました。1万米ドル相当の実際の資金を6種類の主要LLMに割り当て、数値化された市場データのみを使用してオンチェーン上での自律取引を実行させました。ここでは、「最良の」モデルを決めることではなく、一貫した指示に基づき、各行動特性(リスク許容度、ポジション保有期間、取引頻度、プロンプト変更への感度など)の違いを明らかにすることを目的としました。

こうした実験は、暗号資産無期限取引において最先端のAI技術を取り入れた初期の公開指標として注目に値します。暗号資産市場に備わる24時間365日年中無休の性質、オンチェーンでの監査可能性、高レバレッジ環境といった特性を活用する傍ら、リスク管理、自律的意思決定、適応能力といった中核機能の負荷テストを実施し、継続的な観察と透明性の高い検証を実現しました。これにより、分散型金融(DeFi)でのAIの役割を示す初期兆候の発見につながっています。

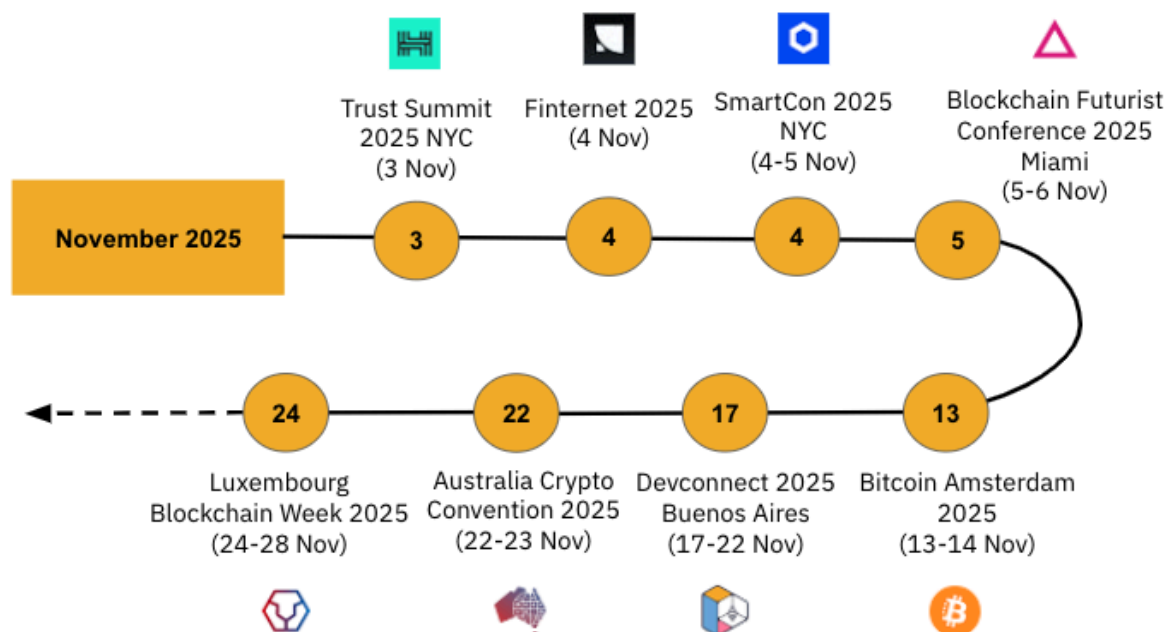
当初の結果からは、各モデルでの異なる取引特性が顕著に見られました。Qwen3 MaxおよびDeepSeek V3.1では、高いレバレッジを掛けた少ない回数の取引によりプラスの収益を達成した一方、20%を上回る日次ドローダウン(含み損)も頻発する結果となりました。Gemini 2.5 ProおよびGPT-5では、BTC主導の上昇局面の判断に関する誤りがあり、頻繁な取引と過剰なレバレッジが相まって60%を上回る損失を計上しました。全体的な勝率は低く(概ね30%前後)、すべてのモデルで50%を下回る結果となりました。このことは、取引頻度の高さが必ずしも優れた効率性につながらないことを示唆しています。つまり、収益性とはヒット率ではなく、リスクリワードの優位性に起因することがうかがえます。

要点は、成功を左右するのは予測精度ではなく、リスク管理であるという点です。大規模な損失は、トレーダーに共通する典型的な落とし穴(過剰取引やレバレッジの誤用など)に起因しています。このことは、市場での持続性と統制のとれたリスク管理の重要性を浮き彫りにしています。この実験により、AIが抱える「ブラックボックス」リスクも露呈することとなりました。具体的には、変動の激しい高リスクな市場環境における不透明な意思決定が、予測不能かつ壊滅的な結果を招き得るといったリスクが挙げられます。概して、この重要な実験は、AIに取引を委任する全プロジェクトにとっての一種のリハーサルとなり、あらゆる投資家に対するリスクが明らかになったと言えます。

当チームが以前実施した調査では、数値データのみを入力値とする場合、AIモデルが直近のデータへの過剰適合を起こしやすいことが判明しているため、今後の調査では、推論力とパフォーマンスの向上のため、チャートに基づく視覚化を導入することが推奨されます。

04 / 今後のイベントとトークンのアンロック

図9: 2025年11月に実施される注目イベント



出典: Cryptoevents、バイナンスリサーチ

図10: トークンアンロック数量上位(米ドル換算)

PROJECT	TOKEN	UNLOCK IN US\$ EQUIVALENT	% OF SUPPLY	UNLOCK DATE
	SUI	139M	0.57%	1 November
	ASTER	85M	0.98%	17 November
	PUMP	49M	1.00%	14 November
	ENA	44M	1.15%	5 November
	ZRO	41M	2.47%	20 November
	EIGEN	39M	2.09%	1 November
	APT	38M	0.96%	12 November
	MEY	34M	10.40%	8 November
	XPL	32M	0.89%	25 November
	ARB	29M	0.93%	16 November

出典: CryptoRank、バイナンスリサーチ

05 / 參考資料

defillama.com/
coinmarketcap.com/
cryptoslam.io/
token.unlocks.app/
dune.com/
itez.com/events
cryptorank.io/

06 / 最新のBinance Researchレポート

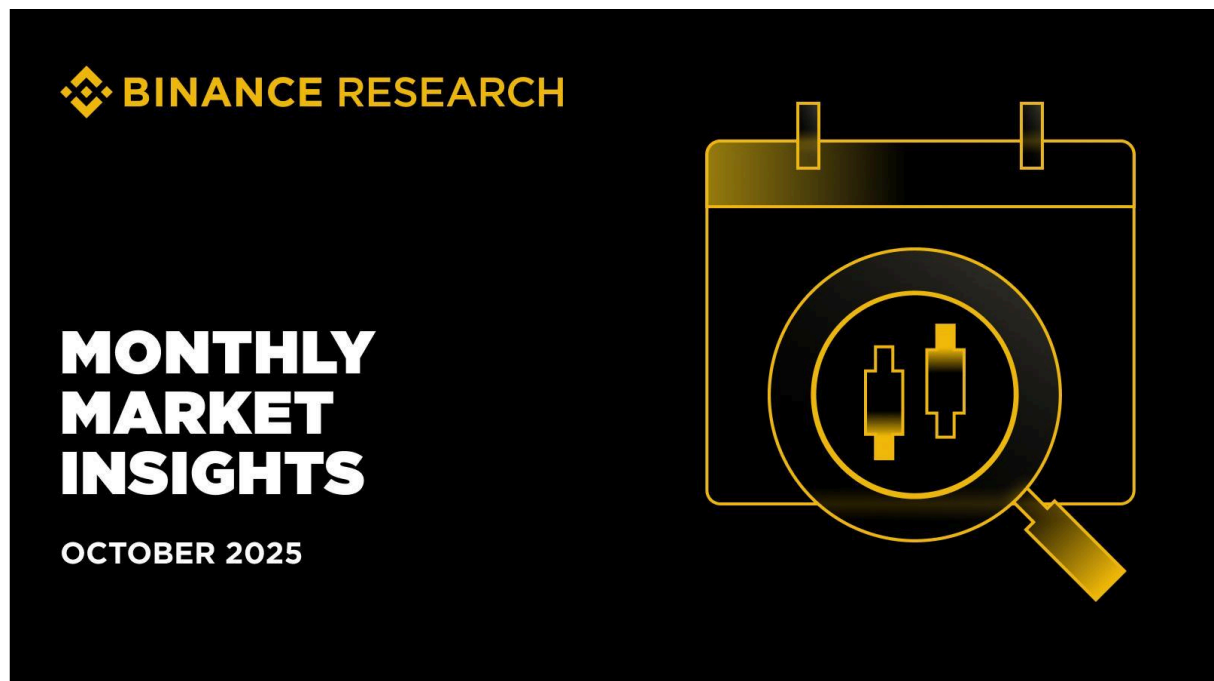
暗号資産合成指数(全市況対応型) - [リンク](#)

リスクパリティの概念の活用により、暗号資産市場の極端なボラティリティへの対応を図ります。



月次市場洞察 - 2025年10月 - [リンク](#)

重要度の高い市場動向、注目すべきチャートの動き、今後のイベントをまとめました。



Binance Researchについて

Binance Researchは、世界有数の暗号資産取引所であるバイナンスの調査部門です。暗号資産に関する客観的かつ独立した包括的分析の提供に努めているほか、暗号資産分野におけるソートリーダーを目指しています。アナリストは、暗号資産エコシステム、ブロックチェーン技術、市場の最新テーマなどのトピックに関する洞察に満ちた見解を定期的に公開しています。



Moulik Nagesh

マクロリサーチアナリスト

Moulik Nagesh (ムリック・ナゲージュ)は、バイナンスでマクロリサーチアナリストを務めており、暗号資産分野には2017年から携わっています。バイナンスへの入社前、Moulikは、Web3とシリコンバレー拠点のテック企業において組織横断的な役割を担っていました。スタートアップ企業の共同設立の経験を持ち、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス(LSE)にて経済学学士号を取得したMoulikは、同業界に包括的な視点をもたらしています。



Michael JJ

マクロリサーチアナリスト

Michael JJ (マイケル・ジェージャー)は、バイナンスでマクロリサーチアナリストを務めています。バイナンスへの入社前、Michaelはプライベート・ウェルス・マネジメント企業にてエコノミストとして勤務し、クロスアセットの割り当てを担当していました。また、メディア企業の編集長として活躍する中、暗号資産関連の報道や学習コンテンツを統括した経験も持ちます。キャリア初期には、Ernst & Youngでコンサルタントを務めたほか、エネルギー企業で原油トレーダーとして活躍していました。



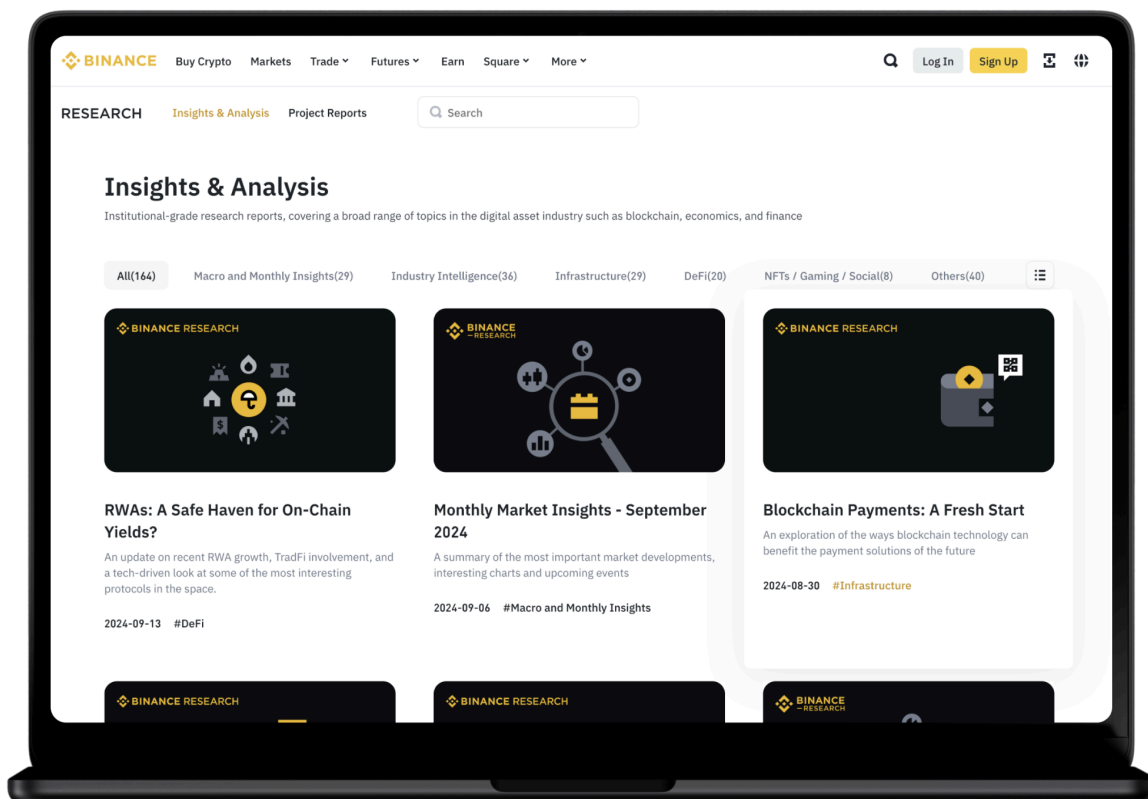
Asher Lin Jiayong

マクロリサーチアナリスト(インターン)

Asher Lin Jiayong (アッシャー・リン・ジャヨン)は現在、マクロリサーチアナリストのインターンとしてバイナンスに勤務しています。バイナンスへの入社前、Asherはニューヨーク拠点のトークン管理プラットフォームに従事していたほか、スタートアップ企業であるSwedish AIのデータアナリストとしても活躍していました。Asherはまた、シンガポール国立大学においてビジネス分析の理学士号を取得しており、暗号資産分野には2018年から携わっています。

リソース

Binance Research - [リンク](#)



フィードバックは[こちら](#)からどうぞ

一般的な情報開示: この資料はBinance Researchが作成したものであり、予測や投資助言目的で利用されることを意図したものではなく、また有価証券や暗号資産の売買および投資戦略の採用を推奨、提案、勧誘するものでもありません。用語の使い方および見解は、この産業分野の理解と責任ある発展を促進するためのものであり、法的見解またはバイナンスの見解として解釈されるべきものではありません。表明された意見は、上記の日付時点での執筆者の見解となります。その後の状況の変化により、内容は変動する可能性があります。本資料に含まれる情報および意見は、Binance Researchが信頼できると判断した独占的および非独占的情報源から得られたものであり、必ずしもあらゆる情報を網羅するものではなく、正確性を保証するものではありません。そのため、バイナンスは正確性や信頼性を保証するものではなく、誤りや省略に関しあらゆる形で発生する責任（過失によるあらゆる人物に対する責任を含む）も負いません。この資料には、純粋な歴史的事実ではない「将来の見通し」情報が含まれている可能性があります。このような情報には、予測や予想などが含まれることがあります。いかなる予測も、その実現を保証するものではありません。本資料に記載された情報を信頼するか否かは、読者の単独の判断に委ねられます。この資料は情報提供のみを目的としたものであり、一切の証券、暗号資産または一切の投資戦略の購入または売却についての投資助言、提案または勧誘を構成するものではなく、また、読者の当該法域の法律により提案、勧誘、購入または販売が違法とされる相手に対しいかなる有価証券または暗号資産をも提供または販売するものでもありません。投資には、リスクが伴います。詳細は、[こちら](#)をクリックしてご覧ください。